



パリ・シテ大学と関西学院大学（日本）の共催による日仏研究集会

リベラル・デモクラシー社会における 宗教に対する法的まなざし

公権力の中立性、基本的自由の保護、平和的共存の
管理、国家利益の保護の間で

2月26日（月）

9時30分～18時

ジャン=ピエール・マシュロンホール

法・経済・経営学部 パリ・シテ大学
ピエール・ラルース通り10
92240 マラコフ

開催責任者

ティエリー・ロンポー教授（パリ・シテ大学）
井上 武史（関西学院大学）

連絡先

cmh.deg@u-paris.fr

研究集会には対面でも遠隔でも参加できる。

 DROIT, ÉCONOMIE, GESTION
Sociétés et Humanités
Université Paris Cité




Centre Maurice Hauriou
Centre Maurice Hauriou pour la recherche en droit public

無料だが登録は必須：<https://sondage.app.u-paris.fr/333672?lang=fr>

プログラム

13:00-14:30 昼食

9:30 am ■ イントロダクション

- ブルーノ・ドジュロン（モーリス・オーリウ・センター所長）とジュリア・モット＝ボムヴォル（人文社会系学部国際関係副委員長）の開会挨拶
- 井上武史とティエリー・ロンボーによる趣旨説明
- 則本浩佑氏（在フランス日本大使館教育・スポーツ担当一等書記官）による来賓挨拶
- 金山直樹氏（パリ国際大学都市日本館館長、慶應義塾大学名誉教授）による来賓挨拶

午前のセッション

司会：イヴ・ゴドメ

フランス学士院会員、パリ・パンテオン・アサス大学名誉教授

I. 分析枠組みの提示

10:00-11:00

- 明治以降の日本における国家と宗教：ベンチマークと基本データ
エリック・セズレ パリ・シテ大学教授（日本文明学）
- 宗教法に関する日仏比較のための方法論的提案
ティエリー・ロンボー パリ・シテ大学教授（公法学）

II. フランスと日本における政教分離原則の法的射程

11:00-13:00

- フランスのライシテが国家と宗教との関係に与えた影響
ジャン・モランジュ リモージュ大学名誉教授
- 政教分離原則は信教の自由と本質的に両立するか？日本の場合
井上武史 関西学院大学教授（公法学）
- ライシテと宗教法に関するコンセイユ・デタの最近の判例
ティエリー＝グザヴィエ・ジラルド コンセイユ・デタ評定官、コンセイユ・デタ事務総長
- 政教分離原則に関する日本の最高裁判所の判例
上田健介 上智大学教授（公法学）

午後のセッション

司会：ゴティエ・ブルドー

パリ・シテ大学副学長、パリ・シテ大学講師

III. 宗教法の新たな動向への視点

14:30-16:00

- フランス法秩序における信教の自由の最近の動向
ギョーム・ドラゴ パリ・パンテオン・アサス大学教授（公法学）
- 宗教的勧誘に対するフランス法の対応
ファラ・サフィ オーヴェルニュ大学教授（私法学）
- 日本の法制度はカルト宗教にどう対処してきたのか？
田近 肇 近畿大学教授（公法学）

IV. ヨーロッパでの比較

16:00-17:30

- ベルギーの宗教管理モデルからの教訓
ルイ＝レオン・クリスチャン ルーバン・カトリック大学教授
- 宗教的多元主義を管理する国家の義務に関するヨーロッパの判例
ポーリーヌ・ヴィダル＝デルプランク リール大学講師

5:30 pm ■ まとめ

オットー・プフェルスマン EHESS研究部長



弁護士の継続教育の一環として認められる研究集会

登録

無料だが登録は必須
登録はこちら

連絡先

モーリス・オーリウ公法研究センター
cmh.deg@u-paris.fr

